視　察　報　告　書

報告者氏名　おだぎり　たかし

１　委員会名
　総務委員会

２　期　　日
　令和６年７月２２日（月）～７月２４日（水）

３　視察地及び調査事項
（１）北海道小樽市
　・一般会計当初予算編成過程の透明化について
（２）北海道余市町
　・余市・仁木ワインツーリズムプロジェクトについて
（３）北海道札幌市
　・ＩＣＴプラットフォームを活用した取り組みについて

４　所感等
（１）小樽市
　本市における当初予算案の議会上程の過程と比較すると、議会各会派への説明が大変丁寧にされていることが分かり、本市でも生かせる部分は大変勉強になった。
　また各部局における予算要望と実際の予算計上の差が分かりやすく表示されていることや今後１０年間の予算不足見込みは、自治体経営の実態を図るうえでも参考になった。
　一方、提案者（執行部）の説明を鵜呑みにすることは問題意識の欠如や、予算議案の見方が提案者（説明者）の視点に偏ってしまう懸念も感じた。そもそも各部局における予算要望が本当市民要望に適合したものなのか、また予算計上をする上で、何を根拠に優先され、予算規模の想定の妥当性を見定める資料の開示や積算課程までも透明にする事は非常に難しく、手間暇がかかること

となる。さらに本市の場合、前市長に対し「経営危機」を訴え誕生し、執行体制が２１年目を迎えていることから、予算不足の公表は、執行能力の不足や市民サービスの大幅削減を意味することもあり、注視が必要と感じた。

従って、市民目線や市民感覚を踏まえることの重要性を改めて痛感した。そのための議員側の力量を培う努力を今後も強めたいと考える。

（２）余市町

「ワイン」や「ツーリズム」については所管（委員会）が違うものの、補正予算等を審議する総務委員会として実態に即した対応（補正予算の必要性や金額、優先順位）を考えるうえで大きな参考になった。

本市でも、農業振興に係る補助金制度は、「当初予算の範囲」ということが最優先され、その年の天候や暑さ、物価等が反映されず、結果として補助率が半減し、農家の過大な負担の上に、農業振興が展開されているケースが多くあり、課題が共有できた。

また本市をはじめ自治体のおける観光の取り組みは、トップダウンや行政の先導型で進まれている傾向を強く感じている。余市町の場合は、まさに個々の市民レベルの取り組み（個々の経営者の思い入れなど）が、すそ野の広さや熱烈なファン層の獲得につながっている実態は勉強になった。

一方、観光行政における予算の透明性や、とりわけ他施策と比較しての位置づけ（予算規模）についてはもう少し深める時間が欲しかった。引き続き、調査・研究に取り組みたい。

（３）札幌市

『ＩＣＴ』・『プラットフォーム』という言葉になじめず、また内容も大変苦手な分野であったため、問題意識を広げる良い機会となった。

近年、どの自治体も競い合うように『ＩＣＴ』等に取り組んでいるものの、「数字（オープンデータは札幌市では２５０件、本市では３００件など）」が独り歩きし、市民感覚のズレを強く感

じている。特に行政内部の各施策への反映や連携が市民から見えにくく、実感がわかない分野ともいえることから、改めて問題意識を構築し、公費で取り組んだ内容が各部局に横断的に活かされ、市民が身近に感じられる施策へ反映できるよう注視・提案していきたい。